

家庭数



学校だより

南国市立国府小学校

令和6年3月6日(水) 第25号



6年生 感謝する地域めぐり

2月29日(木)に、6年生が、これまで小学校生活でお世話になった地域の皆さんに感謝を伝える地域めぐりを行いました。お礼として、手紙、地域を題材にした作文、手作りのしおりとコースター、保護者の方からのプレゼントをお届けに行きました。

道中では、小学校生活の思い出やお世話になった方々の話を色々としていたようです。訪問先の地域の皆さんが、大変温かく迎えてくださったようで、子どもたちも、改めて地域の皆さんの温かさを感じたことでしょう。

ご対応いただいた地域の皆様、誠にありがとうございました。



6年生 お掃除大作戦!

6年生は、6年間過ごした学校にも感謝の気持ちを伝えようと、校舎をきれいにする「お掃除大作戦!」をしています。普段の掃除ではなかなか行き届かないところまで、心を込めて丁寧に掃除をしてくれています。6年生、ありがとうございます。



⇒ 裏面もありますのでご覧ください。

国分大好き！

6年生が「感謝する地域巡り」で地域の方にプレゼントした作文の中から、小砂丘賞に出品し、優秀賞を受賞した作品を紹介します。
その他の6年生の作文も、地域を大切にする思いのあふれるものでした。

まほろばの里 国分

〇〇〇

わたしの住んでいる国分は国分市の中でも北の方にあります。まほろばの里ともいわれています。まほろばの意味がわからなかったのですが、調べてみました。調べてみたら「まほろばとは古事記の中で、ヤマトタケルノミコトが国をしのんで歌われ、まほろばは素晴らしい」という意味でした。

正直、国分は店が少なく、おはちやさんが自転車や後免まで買い物に行く様子を見ていて、(遠くへ大変そうやし、不便やな)と思っていました。また、遊ぶところが限られていたり、友達の数も少なかったりするので、残念に思うこともありました。でも、学校の学習するうちに、だんだんと国分の良いところを考へようになりました。

国分は自然がたくさんあります。学校の体育館の前には木があります。春になると、つぼみだった花がどんどん咲き始める様子が楽しみです。手を洗ったときに、前で見えるので四月になると、(学生が一つ上がった)と思います。来年は見られないと思うけど、何だか寂しく、(また、見たいな)と思います。

夏は家の近くの水路やホタルを見ることが出来ます。小さい巨龍球みたいにはわわっと光っています。(こんなところで見ることができて素敵だな)と思います。前はもっといたのに、だんだん減ってきているような気がします。

秋は、古今集の庭の近くへたくさんコスモスが咲いています。門出のまつりの頃になると、毎年きれいな花を咲かせます。門出のまつりとは国分でも有名な紀貫之をしのぶまつりのことです。わたしたち6年生は千佐日記の暗唱をします。お母さんが、今年もきれいに味いたねえ。」

とこれそうに言っていました。わたしは、
「確かに。」

と答えて、コスモス畑を見ました。(毎年、変わらぬ景色がいいな)と思いました。

そして、地域の人の温かみを感じることが多いです。国分には興分寺や古今集の庭、八坂神社など有名な史跡がたくさんあります。地域に住む佐川さんは、学校に来て地域のことをたくさん話してくれます。十月には、あちのちの史跡を詳しくガイドしてくれました。特に、土佐日記の内容について知らなかったことをたくさん教えてもらいました。夏は、滋養食まで、貫之のお墓参りに一緒に行きました。その時にも、たくさんお話をしてくれて、国分のことや一生懸命で(国分のことを誇りに思っているんだな)と思いました。

また、毎朝、貫之さんパトロールの人たちが、暑い日も寒い日も道路に立ちついで

「おはようございます。」

「行ってらっしゃい。」

などで声をかけてくれます。わたしは、

「行ってきます。」

と返事をします。すると心が安くなります。お母さんに聞いたり、

「〇〇が二歳のとき、国分に引越して来たときから近所の人達は見守ってくれて、〇〇たちの成長を楽しみにしているみたい。」

と言っていました。家の隣の畑を作っている山本のおばちゃんはいつも畑で取れた野菜を届けてくれます。どの野菜もとても美味いです。(こんなことも田舎ならではのな)と思っています。

そして、門出のまつりの他にも、わたしが楽しみにしている地域の祭りがあります。それは竹あかりです。いつから始まったかは知らないけれど、気がついたら毎年の行事になっていました。十月になると、地域の人が作った竹の明かりや保育園の子もたまたま作った明かりが並べられます。おじいちゃんやおばあちゃん、保育園児など、沢山の人が見に来ます。遠くから見ると、そこだけ同じとほ違って、温かい感じがします。地域の人が豚汁を作ってくれたり、いろいろなお店が並びます。豚汁は食べることも温かくなります。だんだん、竹あかりに来る人が増えているので、もっと来てくれるようにお店を増やしたり、小さい子どもが楽しめるものも考へたいと思います。

自分たちが、大人になっても、今と変わらないような自然豊かで、門出のまつりや竹あかりなどの伝統も残っていてほしいです。人数が少なくなっていくのは少し心配しています。私は、将来、国分に住んで、国分がますます活気あふれる地域になって欲しいと思います。そして、わたしが子どもたちを誇りに思ったり、お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんを誇りに思っています。

「こども高知新聞」読もっかに掲載されました

2/29(木) 掲載

ほきがみねへいった

1年 〇〇〇〇

ほくたち1年生は、ほきがみねへいきました。

はじめに、マグネットをつくりました。それから、まんげきようをつくりました。

つぎに、ペンゴをしながら、山のぼりしました。〇〇さんが、きのがあまの」といいました。

ほくは、いろいろなことができて、うれしいなとおもいました。

「国府っ子応援団」募集中!

